

支える会通信

No.83

調布を耕す会を支える会

事務局／〒182-0024 東京都調布市布田 3-20-1

TEL 042-486-1022 & FAX 042-486-0232

小林さんのインド紀行

デリー編

こんにちは。カフェでアルバイトさせて頂いてる小林です。今回がインド紀行最後の投稿となります。記念すべき最終回は、インドの首都デリーにある福祉施設を訪ねた時の話を書きます。

今年の初め、カフェで働き始めたことで障害や福祉に興味を持ち始めた私はインド旅行出発の前から、現地の福祉施設を探し、見学のアポイントを交渉していました。いくつかの施設にメールを送り、唯一返答が返ってきたのがデリーの郊外にある3歳児から小学生を対象にした知的障害者支援施設「サマダーン」でした。この施設は学童のような施設で、近隣で暮らす障害を持つ子供たちを朝から預かり勉強とレクリエーションをして、午後3時には彼らを家に帰します。私はこの施設を朝から昼過ぎまで見学しました。大変面白かったのが、まず正規スタッフは2人だけで残り5人のスタッフは全て地元のおばちゃんたちがボランティアで活動していること。そして、施設周辺に住む家族がお昼ご飯やおやつをその都度子供へ届けに来ることです。その光景は地域の協力というよりも、むしろ地域の一部として機能しているような雰囲気でした。帰り際に、施設長へこの施設の運営状況について伺うと、まず国からの補助金、次に民間からの寄付金により何とか経営を維持しているが、ボランティアの人件費や利用者の食費を支払うだけの経済的余裕がどうしてもないため、その点に関して地域の協力により支えられてきているとのことでした。まさに地域、地元が包摂する福祉のあり方だと思いました。

NIMBYという言葉があります。この言葉はNot in my back groundの略称で、日本語に訳すと、うちの裏庭ではないところ、となります。この言葉は、社会的な必要性を理解していても、近隣にあると嫌な施設のことを意味します。代表例とされているのが、お墓、空港、学校、そして障害者福祉施設です。これは政治地理学でよく扱われる分野で、これらの施設の建設が決まると大抵抗

議運動などが起こります。この動きが特に先進国に多いことは大変興味深い事実です。

いったいどうしてなのでしょう。私はそれが疑問です。物理的・経済的に豊かな先進国に暮らす市民の心は貧しいのでしょうか。インドにあって日本に無い何かがあるのでしょうか。

疑問の解決には未だ至りません。ただ、今回の海外旅行は、「気づき」のある実りあるものでした。世界各国、福祉インターンの旅なども、面白いのかもしれない。



写真：サマダーンの扉を開けて

ほう&れん&そう畑

<< 役員会報告 >> 2017年11月5日カフェ大好きにて行われ、
以下の議題について話されました。

*法人事務局から報告 法人の状況 新作業所 グループホームについて
*作業所の状況 *バザーの感想 *会計から報告 会員状況 *広報の内容

☆ありがとうございます

<<会員名紹介>>

* 敬称略、順不同
2017年10月7日~2017年12月8日に新規継続で会員になって頂いた方々です。ご協力に感謝致します

2017年度新規継続会員

【正会員】

渡辺千尋 渡辺栄 渡辺健二 久保庭
伊佐男 久保庭優子 久保庭伊太郎
生江勝 生江幸子 朝日敏幸 植田賢
次 堀美子 堀政栄 渡邊和子 渡邊
忠昌 渡邊昌仁 洞江幸男 洞江和子
穴戸通良

【個人賛助会員】

福島順子 駒井道昭 加藤慎太郎
生江豊喜 生江浅子 原喜代子 岡
まゆみ 洞江美緒 三角真智 佐藤
康男 佐藤千幸 武村弘幸

☀ 年末年始募金協力者紹介 ☀

* 敬称略、順不同
高井彬

